

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	哲学		
担当者(Instructors)	井上 研	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
哲学とはいま生じつつある事態、そして来たる未来について広く深く考察する学問です。本講義では特に「心」に関わる3つの話題、「他者の心」、「機械の心」、「人格の同一性」を用意しました。本講義では哲学的問題について、映画、マンガ、小説などの親しみやすい題材を使って解説していきます。本講義は、いま社会で進行しつつあることは何か、われわれの身に何が起ころうとしているのかということについて哲学的に考えることができるようになることを目的としています。なお、質問等の受付については、授業内に指示します。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	毎回の講義資料を講義時に配布し、それに基づいて講義します。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション①	些か長めのイントロダクション前半。「われわれは考えるのではなく、考えさせられる」	□
第2回	イントロダクション②	些か長めのイントロダクション後半。イントロダクション前半で考察したことを踏まえた上で、「哲学的に考えること」のエッセンス、特徴を解説する。講義全体の展望。	□
第3回	他者の心①-他者の心の存在の謎について。	他者の心の存在について考察する。また、他人の気持ちや想いがわかるとはどのようなことなのかについて考察する。	□
第4回	他者の心②-歯医者には患者の痛みが理解できるか？	他者に心が存在するという信念の根底にある「類推」について批判的に検討する。	□
第5回	他者の心③-他者の心が存在することは確かなのか？(確かとは言えない)	他者の心が確かに存在している、ということに対する明確な証拠というものは存在しないという結論について検討する。	□
第6回	機械の心①-"心を持った"ロボットがでてくる映画って意外と多いよね？コンピュータの歴史について。	コンピュータの歴史を概観する。「計算主義」の解説をする。	□
第7回	機械の心②-「計算」とはなにか？	「計算」という概念について解説する。	□
第8回	機械の心③-考える機械の哀しみ。「中国語の部屋」考える機械の哀しみ。コンピュータプログラムには絶対に心は宿らないのか？	『考える機械の哀しみ』という対話篇を通じて「中国語の部屋」などの思考実験を解説する。	□
第9回	機械の心④-考える機械の哀しみ。「人工ニューロン」心が生じるのにはナマモノの脳しかダメなのか？	引き続き『考える機械の哀しみ』という対話篇を通じて、コンピュータに知能や感情は宿るか、について考察する。	□
第10回	機械の心⑤-エイヴァに自由を。チューリングテストとは何か？	「チューリングテスト」について解説する。	□
第11回	わたし①-プレリュード～あなたは心派？身体派？	わたしがわたしであるためにもっとも重要なものは何か、という自己の問題について質問形式で探る。	□
第12回	わたし②-「テセウスの船のパラドクス」物の同一性～人格の同一性。「同じ」には2種類ある。	「テセウスの船のパラドクス」を通じて「人格の同一性の問題」について理解する。質的同一性と数的同一性という概念について理解する。	□
第13回	わたし③-「わたしたち、入れ替わってる!？」入れ替わりから見る人格の同一性。	「入れ替わり」の思考実験を通じて人格の同一性の前提としての「心理的連続性」という概念について理解を深める。	□

第14回	わたし④-記憶が改ざんされたり、消えてしまったりしたらどうなるの?～常識的な見方を疑ってみる	「心理的連続性」に基づく人格の同一性という常識的な見解について批判的に検討する。	☐
第15回	わたし⑤-複製の問題。わたしのコピーが生まれた瞬間わたしは存在しなくなる、だって!?	「スワンプマン」や「転送機」といった思考実験を通じて、「複製させる自己」と「自己の同一性」について考察する。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) 教員からの質問について自分なりの答えを考えてみる。（1時間） あらかじめ示す次回の内容について、自分で調べておく。（1時間） 前回の講義内容の要約を作る。（2時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) レポート課題についての総評を共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	自分を取り巻く生活について哲学的な観点から分析することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		60%		40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 講義毎にコメントカードを提出する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	スティーブン・ロー『北極の北には何がある?』ランダムハウス講談社文庫	
2	岡本裕一朗『思考実験：世界と哲学をつなぐ75問』ちくま新書	
3	岡本裕一朗『いま世界の哲学者が考えていること』ダイヤモンド社	
4	ジュリアン・バジニ『100の思考実験』紀伊國屋書店	
5		